鶴岡工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	保健・体育Ⅴ

科目基礎情報

科目番号	0096	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	創造工学科（機械コース）	対象学年	5
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	Activesports		
担当教員	松坂 渉,松橋 将太		

到達目標

1. 周囲の人へ思いやりを態度で示すことができる。（協調性・対人コミュニケーション）
2. 自らの行動による集団への影響を感じながら、行動選択ができる。（責任感・協調性）
3. 自分で決めた取り組み、成果（目標）を達成することができる（意思決定・自己管理）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
１．意欲・態度	自己の健康管理のために必要な知識を理解し、具体的な取り組みを計画することができる。	自己の健康管理のために必要な知識を理解し、取り組みに参加できる。	運動を通じて、自身の健康管理意識が見られない。
２．協働・協力	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動を協力して計画・立案できる。	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために協力できる。	心身の健康維持のために、習慣的なスポーツ活動のために消極的である。
３．自己管理・配慮	自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定・安全管理ができる。	自己の健康維持のために運動機会を設ける思考力・環境設定ができる。	自己の健康維持のために運動機会を設けるための倫理観が養成できない。

学科の到達目標項目との関係

(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。

教育方法等

概要	・５学年として、健康保持増進の習慣を養う。 ・運動機会を通して、協調性、責任などの社会的態度を育み社会性を身につける。 ・スポーツを楽しむ過程で、多様性を受け入れる姿勢を育む。
授業の進め方・方法	・準備運動（ランニング、ストレッチ）の意義を理解し、怪我予防のために実施する。 ・適時種目内容に応じた施設・設備、用具を活用し、毎時間の目標に沿って授業を進めていく。
注意点	・服装は運動に適した服装とする。 ・体調不良、特殊的な事由以外は、遅刻は減点対象となるので注意すること。 ・屋外で使用した靴を、体育館用シューズとして再利用することを固く禁ずる。

事前・事後学習、オフィスアワー

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	校内体育大会練習１	・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。
		2週	校内体育大会練習２	・仲間と協力して行動できる。
		3週	校内体育大会練習３	・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。
		4週	校内体育大会練習４	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。
		5週	校内体育大会練習５	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
		6週	スポーツ活動計画署による実施	・「スポーツ活動計画書」を基に実施する.
		7週	スポーツ活動計画署による実施	・「記入者・キャプテン」の両方を１回以上担うこと.
		8週	スポーツ活動計画署による実施	・「用具責任者」を2回以上担うこと.
	2ndQ	9週	スポーツ活動計画署による実施	以上の参画要件を満たすこと.
		10週	スポーツ活動計画署による実施	
		11週	スポーツ活動計画署による実施	※種目別協働実施①（屋外）とは異なる種目選択を実施する。
		12週	スポーツ活動計画署による実施	・「スポーツ活動計画書」を基に実施する.
		13週	スポーツ活動計画署による実施	・「記入者・キャプテン」の両方を１回以上担うこと.
		14週	スポーツ活動計画署による実施	・「用具責任者」を2回以上担うこと.
		15週	スポーツ活動計画署による実施	以上の参画要件を満たすこと.
		16週	スポーツ活動計画署による実施	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	

				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	

評価割合

	意欲・態度	協働・交流	自己管理・配慮	合計
総合評価割合	40	30	30	100
集団態度	40	0	0	40
取組態度	0	30	0	30
協力・協調	0	0	30	30